

- 4:32 信じた者の群れは、心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべてを共有にしていた。
- 4:33 使徒たちは、主イエスの復活を非常に力強くあかしし、大きな恵みはそのすべての者の上にあった。
- 4:34 彼らの中には、ひとりも乏しい者がなかった。地所や家を持っている者は、それを売り、代金を携えて来て、
- 4:35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に従っておのおのに分け与えられたからである。
- 4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、
- 4:37 畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。
- 5:1 ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物を売り、
- 5:2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。
- 5:3 そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。
- 5:4 それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」
- 5:5 アナニヤはこのことばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。
- 5:6 青年たちは立って、彼を包み、運び出して葬った。
- 5:7 三時間ほどたって、彼の妻はこの出来事を知らずに入って来た。
- 5:8 ペテロは彼女にこう言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのですか。私に言いなさい。」彼女は「はい。その値段です」と言った。
- 5:9 そこで、ペテロは彼女に言った。「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたのですか。見なさい、あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたをも運び出します。」
- 5:10 すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。入って来た青年たちは、彼女が死んだのを見て、運び出し、夫のそばに葬った。
- 5:11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。

## はじめに

医師のルカは初代教会の話を記録に残しましたが、調査するのも記録するのもたいへんな問題についても、書きもらしませんでした。

ルカはこの個所で、教会が生まれた当初から罪を根絶することに神が専心しておられたと教えます。これから詳しく学びますが、新約のコミュニティーで最初に記録に残された罪は、財産絡みの罪でした。

「富の近くに罪はある」と、ある聖書注解者は言います。

今日の聖書個所には、教会コミュニティーで解決すべき富とその分配の問題について記されています。財産の共有について最初に出てきたのは、使徒 2 : 45 でした。その後、使徒 4 : 32-37 でも登場します。この個所で起こったことは、6 章 1-7 節への導入でもあります。その個所には、教会内における富の分配で、やもめたちが見過ごされていたとあります。

この個所は、内容からふたつに分けることができます。

使徒 4 : 32-37 は、教会コミュニティーにおいて富を分かち合う正しい方法を示す話です。一方、使徒 5 : 1-11 は、間違った方法の例です。

前半を「真実の分かち合い」とし、後半を「偽りの分かち合い」としましょう。

### 1. クリスチャン同士の真実の分かち合い (使徒 4 : 32-37)

今日の個所には、初代教会の経済について、私たちに有益な 4 つの明確なポイントが記されています。

#### a) 無私の分かち合い (32 節)

32 節を読む前に、31 節に注目しましょう。

#### 使徒 4 : 31

4:31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のこ  
とばを大胆に語りだした。

「一同は聖霊に満たされ」とあります。

彼らが皆聖霊に満たされた結果、無私の精神でささげるようになりました。

正直なところ、私たちは誰でもクリスチャンになる前は自分本位でした。

人は、自分の人生を思うように歩み、したいことをして、自分の願いをかなえてくれる人や  
物にお金をかけたいと思います。

慈善事業への寄付や、教会への献金も、自分がよいことをしたと思えるからです。

けれども、神の聖霊が私たちに臨まれると、神の恵みによって、自分の人生を他の存在と分  
かち合わなければなりません。その他の存在とは、聖霊です。

私たちの心の中に住まわれるこのお方が、自分を顧みずにささげるよう促してくれます。

聖霊に満たされ、聖霊に支配されているなら、無私の心で献金をささげることができます。

32 節には、信徒たちが「心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わ  
ず、すべてを共有にしていた」とあります。

自分の持っているものがすべて神から与えられたものだとして認識するなら、困っている人に金  
銭を分かち合うのがもう少し簡単になるのかもしれませんが。

ケチな人にならないでください。私たちの神は気前のよいお方です。

私たちのささげものは、神が与えてくださったものを私たちがどれだけ認識しているかを映  
し出します。

#### b) 自発的なささげもの (34-35 節)

使徒たちが献金を要請したのではありません。人々は自発的に土地や家などの財産を売って、  
その代金すべてを使徒たちのもとに持ってきました。そして、誰がもっとも困っているか決  
めるのは使徒たちにゆだねました。

もちろん聖書は、主の宝物倉に収入の十分の一をささげるように教えていますが、土地や家  
などの財産を売ることについては、本人の自由意志によります。

巧みな誘導や強制によって神の働きにささげてはいけません。

私たちがささげたいから、という動機でささげなくてはなりません。

ささげたいという思いは自由意志ですが、内なる聖霊に明け渡すことからそういう思いが起  
こります。

ここには、使徒たちが分配するためにお金を持つてこられたとあります。

つまり、そのお金の使い道を決めるのはささげた人ではありません。

使徒たちが責任を持って、信徒の仲間のうちで必要のある人にお金を分配しました。

#### c) 犠牲的なささげもの (34-35 節)

この個所には、信徒の仲間困っている人たちを養うために、家や土地を売った人たちがい  
たと記されています。

#### マルコ 12 : 41-44

12:41 それから、イエスは献金箱に向かってすわり、人々が献金箱へ金を投げ入れる様子を見  
ておられた。多くの金持ちが大金を投げ入れていた。

12:42 そこへひとりの貧しいやもめが来て、レプタ銅貨を二つ投げ入れた。それは一コドラ  
ントに当たる。

12:43 すると、イエスは弟子たちを呼び寄せて、こう言われた。「まことに、あなたがたに告  
げます。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れていたどの人よりもたくさん投げ入れまし  
た。

12:44 みなは、あり余る中から投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、  
生活費の全部を投げ入れたからです。」

イエスは、裕福な人が少しの献金をするのは簡単だが、貧しい中でささげるのは、神に対する深い信仰の表れだとおっしゃいます。

自分の持てるすべてをささげるには、神への信仰と信頼が必要です。神が必要なときにすべての必要を満たしてくださると信じていなければできません。

聖霊に導かれたなら、犠牲的にささげることは決して間違いではありません。

けれども、自分の人生の今の時点でそのようにささげるよう神が求めておられる、ということをしかりと確かめるべきです。

1985年に私が家売り、給料もよくて営業車も貸与してくれる販売職を辞めたとき、多くの人から批判されました。

批判した人たちには、クリスチャンもノンクリスチャンもいました。親類もいました。

けれども34年経った今でも、私は人生を振り返って、神が必要なときにすべての必要を満たして下さったと言えます。

何も欠けることなく、子どもたちにも必要なものを与えられなかったことはありません。

一年ほど前、「私の声カード」で、私たち家族の必要を神がどのように備えて下さったか信仰の証を聞きたいと書いてこられた方がいました。

誰がどういう理由で書かれたのかわかりませんが、今日皆さんの励みになればと思い、ここでその一例をお話します。

1987年、私はフェイス・ミッション・バイブルカレッジでの2年間の学業を修了し、卒業式の前夜、最後の祈りと賛美の会に出席する予定でした。

けれども、神を賛美する気分ではありませんでした。

神がすべての経済的な必要を2年間満たして下さったことに心から感謝していましたが、その時、少し霊的にダウンしていたのです。

実はその時、お金も食べ物もまったくない状態で、洗濯機が壊れました。

そのときに神が与えてくださるという確信を私は持てませんでした。

すると、電話が鳴りました。電話は学長からで、祈りと賛美の会がもう始まっているのになぜ来ないのかと言われました。

私は、自分たちの置かれた状況を説明しました。学長は、過去2年間私たちが信仰によって生活してきたことを全く知らなかったと言いました。私たちはそのことを人には知らせていませんでした。本当はまったくお金がなかったのに、周囲には、金銭的に余裕があるように見せていたのです。

バイブルカレッジの学長は、とにかく賛美の会に出席するようにと私を説得しました。

私が到着すると、学長は学生の間で献金を募ったと言って、相当な額のお金を渡してくれました。

また、学内の食品の在庫から、私たち家族が数日間食べられるだけの食べ物を分けてくれました。

私は家に帰って、そのことをウェンディに話しました。

私たちは、お金も食べ物も半分だけしかいただけないと思いました。

次の日、私はエディンバラの町の反対側に住んでいるもうひとりの学生のところまで行きました。私たちがもらったお金と食べ物の半分以上を渡すためです。彼も、賛美の会には来ていませんでした。

彼のアパートに着くと、彼はいませんでしたが奥さんがいました。それで、奥さんに私たちがもらったお金と食べ物の半分以上を渡しました。

すると奥さんは、自分たちもお金と食べ物もなく困っていたと言いました。その上、来客を迎えることになっていて、学生の夫は駅まで客を迎えに行ったということでした。奥さんは、お金と食べ物を与えられるように、ひざまずいて神に祈っていたそうです。

神は私たちの必要をすばらしい方法で満たして下さいました。さらに、そのいただいたものをクリスチャンの家族と分かち合うことができました。

それだけではありません。実は、2年以上の間、このお金も収入もない家族を神が用いて、私たちの必要の約2割を満たして下さっていたのです。

日本風に言うなら、これは私たちからの返礼のささげものです。

次の日、修理屋さんを呼んで洗濯機を修理してもらいました。修理が終わった後、その男性は、自分はクリスチャンなので修理代はいただきません、と言いました。

私たちの神は素晴らしいお方です。このお方は誰にも借りがありません。神のために何かを犠牲にしてささげるよう導かれたなら、神はご自身の方法と時に報いてくださいます。そして、私たちのすべての必要を満たしてください。

**d) 欲ではなく必要を満たす信徒間のささげ物。 (35 節)**

皆さんもご存知のように、ほしい物と必要な物は違います。欲しい物はたくさんあっても、そのすべてが必要ではありません。私たち夫婦が聖書から学んで悟っているのは、神が私たちの必要を満たすと約束してくださっていることです。私たちが欲しい物が常に与えられるとは限りません。そして、ピリピ 4 : 19 の約束を固く握ってきました。

ピリピ 4 : 19

4:19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。

この約束は、惜しみなくささげていた教会に与えられました。それで、私たちも惜しみなくささげるよう示されていると思いました。

ですから、いただいたお金と食べ物すべて私たちに必要かどうかを祈って判断しなくてはなりません。

バイブルカレッジで過ごした 2 年間で、本当に必要なものについてたくさん私たちに教えられました。

**2. クリスチャンの間に起こる偽りの分かち合い。 (5 : 1-11)**

今日の聖書箇所の後半の学びに入ります。これは、教えづらい部分です。

この話は、ルカが歴史家として正直であることを現しています。

このようなあまり良くない出来事は書かないでおくこともできたのに、彼は神の導きに従ってこの話も記録することにしました。彼は、自分が知ったすべてのことを正確に記録するように導かれていたのです。

複数の聖書注解者が、アナニヤとアカンの共通点を指摘します。

アカンの罪について知らない人もいると思うので、ここで読みましょう。

ヨシュア記 6 : 17-19

6:17 この町と町の中のすべてのものを、【主】のために聖絶しなさい。ただし遊女ラハブと、その家に共にいる者たちは、すべて生かしておかなければならない。あの女は私たちの送った使者たちをかくまってくれたからだ。

6:18 ただ、あなたがたは、聖絶のものに手を出さな。聖絶のものにしないため、聖絶のものを取って、イスラエルの宿営を聖絶のものにし、これにわざわざをもたらさないためである。

6:19 ただし、銀、金、および青銅の器、鉄の器はすべて、【主】のために聖別されたものだから、【主】の宝物倉に持ち込まなければならない。」

ヨシュア記 7 : 10-26

7:10 【主】はヨシュアに仰せられた。「立て。あなたはどのようにひれ伏しているのか。

7:11 イスラエルは罪を犯した。現に、彼らは、わたしが彼らに命じたわたしの契約を破り、聖絶のものの中から取り、盗み、偽って、それを自分たちのものの中に入れさせた。

7:12 だから、イスラエル人は敵の前に立つことができず、敵に背を見せたのだ。彼らが聖絶のものとなったからである。あなたがたのうちから、その聖絶のものを一掃してしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。

7:13 立て。民をきよめよ。そして言え。あなたがたは、あすのために身をきよめなさい。イスラエルの神、【主】がこう仰せられるからだ。『イスラエルよ。あなたの中に、聖絶のものがある。あなたがたがその聖絶のものを、あなたがたのうちから除き去るまで、敵の前に立つことはできない。』

7:14 あしたの朝、あなたがたは部族ごとに進み出なければならない。【主】がくじで取り分ける部族は、氏族ごとに進みいで、【主】が取り分ける氏族は、家族ごとに進みいで、【主】が取り分ける家族は、男ひとりひとり進み出なければならない。

7:15 その聖絶のものを持っている者が取り分けられたなら、その者は、所有物全部といっしょに、火で焼かれなければならない。彼が【主】の契約を破り、イスラエルの中で恥辱になることをしたからである。』」

7:16 そこで、ヨシヤは翌朝早く、イスラエルを部族ごとに進み出させた。するとユダの部族がくじで取り分けられた。

7:17 ユダの氏族を進み出させると、ゼラフ人の氏族が取られた。ゼラフ人の氏族を男ひとりひとり進み出させると、ザブディが取られた。

7:18 ザブディの家族を男ひとりひとり進み出させると、ユダの部族のゼラフの子ザブディの子カルミの子のアカンが取られた。

7:19 そこで、ヨシヤはアカンに言った。「わが子よ。イスラエルの神、【主】に栄光を帰し、主に告白しなさい。あなたが何をしたのか私に告げなさい。私に隠してはいけない。」

7:20 アカンはヨシヤに答えて言った。「ほんとうに、私はイスラエルの神、【主】に対して罪を犯しました。私は次のようなことをいたしました。

7:21 私は、分捕り物の中に、シヌアルの美しい外套一枚と、銀二百シェケルと、目方五十シェケルの金の延べ棒一本があるのを見て、欲しくなり、それらを取りました。それらは今、私の天幕の中の地に隠してあり、銀はその下にあります。」

7:22 そこで、ヨシヤが使いたちを遣わした。彼らは天幕に走って行った。そして、見よ、彼らが彼の天幕に隠してあって、銀はその下にあった。

7:23 彼らは、それらを天幕の中から取り出して、ヨシヤと全イスラエル人のところに持って来た。彼らは、それらを【主】の前に置いた。

7:24 ヨシヤは全イスラエルとともに、ゼラフの子アカンと、銀や、外套、金の延べ棒、および彼の息子、娘、牛、ろば、羊、天幕、それに、彼の所有物全部を取って、アコルの谷へ連れて行った。

7:25 そこでヨシヤは言った。「なぜあなたは私たちにわざわざいもたらしたのか。【主】は、きょう、あなたにわざわざいもたらされる。」全イスラエルは彼を石で打ち殺し、彼らのものを火で焼き、それらに石を投げつけた。

7:26 こうして彼らは、アカンの上に、大きな、石くれの山を積み上げた。今日もそのままである。そこで、【主】は燃える怒りをやめられた。そういうわけで、その所の名は、アコルの谷と呼ばれた。今日もそうである。

聖書学者ベンゲルは言いました。「アカンの罪とアナニヤの罪にはあらゆる類似点がある。いずれも、旧約および新約それぞれの教会の初期時代に起こったことである。」

聖書学者 F. F. ブルースは言いました。「使徒の働きのアナニヤの話は、ヨシヤ記のアカンの話に相当する。いずれも欺きによって、神の民が勝利をもって前進する過程をさえぎった。」

では、アナニヤとサツピラの話の全貌を学びましょう。

5 : 1-2 には、アナニヤという名の男が妻サツピラとともに土地を売ったとあります。そして、妻も承知の上で、アナニヤは代金の一部を手元に置いておき、残りを使徒たちのところに持っていきました。

一読すると、アナニヤは使徒 4 : 36-37 に登場するバルナバと同じことをしたように見えます。

#### 使徒 4 : 36-37

4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、

4:37 畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

ふたりとも所有地を売って、その代金を使徒のところに持っていきました。

けれども、ふたりの行動で違うところがありました。バルナバは代金全額を持っていきましたが、アナニヤは代金の一部だけを持っていきました。

ペテロはここでふたつの罪を指摘します。正直でないことと欺きです。

アナニヤは、持ってきた金額について正直には言いませんでした。また、ささげものについて使徒たちを欺こうとしました。

ペテロは 4 節で、アナニヤは誰からも土地を売るよう強制されていないし、代金全額を使徒のところに持っていく必要もなかったと明言しました。代金の一割でも半額でも、自分で決めた額をささげられたのです。

ペテロは、アナニヤがこの件について神を欺いたと指摘しました。

この罪について理解するには、5:2 で「残しておき」と訳されたギリシャ語の単語を理解する必要があります。

ここで使われているギリシャ語の動詞は、「エノスフィサト」です。

これは、着服する、横領する、という意味です。同じ単語が、ギリシャ語訳の旧約聖書ヨシュア記 7:1 で使われています。これは、アカンが物を盗った場面です。

同じギリシャ語の単語が新約聖書で使われている個所はあとひとつだけで、それは誰かが盗みを働くことを指しています。

ですから、アナニヤとサツピラが土地を売る前に、土地の代金全額を教会にささげるといふ何らかの誓約を交わしていたと推測できます。

そういう視点でこの話を紐解くと、アナニヤとサツピラの行為が正直ではなかったとわかります。彼らは教会に対して、自分たちが犠牲的にささげていると見せかけて、実のところはそうではありませんでした。

ペテロはとくに、うそをついた罪以上に偽善の罪を強調しました。

うそをついたこと自体だけでなく、偽善について憂慮していました。

このふたりは、実際には犠牲を払わずに、犠牲を払って惜しみなくささげた人という信望と名声を手にしようとしていました。

教会で高く評価されるために、夫婦そろって土地の代金のことでうそをついたのです。

彼らのささげた動機は、エルサレムの貧しいクリスチャンを助けることではありませんでした。

自らのエゴをくすぐるためにしたことです。

自分本位なささげもので、聖霊に導かれたものではありませんでした。

アナニヤのささげものの後ろに、ペテロはサタンの姿を見ます。

### 使徒 5:3

5:3 そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。

ペテロは続けて 4 節で、アナニヤのうそは神に対する罪だと言いました。

アナニヤはペテロの言葉を聞くと、その場で倒れて死にました。

その結果、「これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じ」ました。(5 節)

7 節には、夫に起こった出来事を知らないサツピラが約 3 時間後に現れたとあります。

8 節でペテロは、土地を売った金額について正直に話すチャンスをサツピラに与えます。

自分の過ちに気づいてくれることを願って、恵みの手を差し伸べたわけです。

ペテロは、土地を売った金額はサツピラと夫が言った金額ではないと指摘しました。

サツピラも自分の罪のせいで、その場で死にました。

そして 11 節に、信徒の間の反応が書いてあります。

### 使徒 5:11

5:11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。

では、初代教会で起こった大事件から、OIC にいる私たちの状況に適用できることは何でしょう。

## **適用**

この話から、私たちの生活と OIC での交わりに適用すべき 3 つの明確な教えがあります。

### 1. 教会内で起こる罪の深刻さ。

ペテロは、アナニヤとサツピラのうそはペテロに対してではなく、聖霊に対する欺きだと言います。

ですから、罪はすべて、神に対して犯していることになります。  
イエスも、ルカ 12：1-10 で偽善に関して教えておられます。

#### ルカ 12：1-10

12:1 そうこうしている間に、おびたしい数の群衆が集まって来て、互いに足を踏み合うほどになった。イエスはまず弟子たちに対して、話しだされた。「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。それは彼らの偽善のことです。

12:2 おおいかぶされているもので、現されないものはなく、隠されているもので、知られずに済むものはありません。

12:3 ですから、あなたがたが暗やみで言ったことが、明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上で言い広められます。

12:4 そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。

12:5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。

12:6 五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。

12:7 それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。

12:8 そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。

12:9 しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。

12:10 たとい、人の子をそしることばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。

聖霊を「けがす」とは、はっきりと示された真理に故意に逆らうことです。

神のみことばにわざと逆らう人を神は赦されません。

ですから、罪を悔い改めなくてはなりません。

ルカは教会に恐れが生じたと 5 節と 11 節で 2 度指摘しました。

神の民に対して罪を犯すことがどれほど邪悪であるかを強調したのです。

偽りと欺きは教会の交わりを壊します。

アナニヤとサツピラの偽善が晒されず、罰せられなかったら、教会内で偽善が引き続き行われることになります。

神は、教会が偽善者ばかりになることを望まれません。

神の御子イエス・キリストは、きよい教会のために死なれました。OIC にいる私たちはその事実を真剣に受け止めなくてはなりません。

#### エペソ 5：22-27

5:22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。

5:23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

5:24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

## 2. 私たちの良心の大切さ。

### 使徒 24 : 14-16

24:14 しかし、私は、彼らが異端と呼んでいるこの道に従って、私たちの先祖の神に仕えていることを、閣下の前で承認いたします。私は、律法にかなうことと、預言者たちが書いていることとを全部信じています。

24:15 また、義人も悪人も必ず復活するという、この人たち自身も抱えている望みを、神にあって抱いております。

24:16 そのために、私はいつも、神の前にも人の前にも責められることのない良心を保つように、と最善を尽くしています。

これは、ヨハネ第一 1 : 5-10 でヨハネが語っていることでもあります。

### ヨハネ第一 1 : 5-10

1:5 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。

1:6 もし私たちが、神と交わりがあると言っているが、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行ってはいません。

1:7 しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。

1:8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。

1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

1:10 もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。

私たちは神の前に隠し事のない生き方をするよう努めなくてはなりません。

光を当てて心を探られる聖霊の御業に心を開かなくてはなりません。

残念ながら、アナニヤとサツピラはそうしませんでした。そして、教会に対する戒めとして神によって用いられました。

### **3. 教会内での戒めの必要性。**

残念ながら、教会内での戒めという点において、教会が正しくなかった歴史もあります。

罪を隠ぺいしようとした教会、些細なことに厳罰を下してしまった教会などさまざまです。

ここでは、うそと欺きの罪は些細なことではないとはっきりわかります。それで、厳しい対処が必要とされました。

イエスは、マタイ 18 : 15-17 で、教会内の罪にどう対処すべきかを教えておられます。

### マタイ 18 : 15-17

18:15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。

18:16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。

18:17 それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人や取税人のように扱いなさい。

誰かのことで牧師のところに文句を言いに行く前に、私たちひとりひとりに他の人の罪を指摘する責任があります。

個人的に話しても聞き入れてもらえない場合は、牧師か、信仰が成熟した教会員に関わってもらう責任があります。

それでもその人が悔い改めなければ、教会全体がその問題について聞かされなくてはなりません。

それでもその人が悔い改めなければ、交わりから排除されなくてはなりません。

神に助けをいただいて、私たちが自分自身の罪を真剣に受け止め、また OIC という教会の交わりの中で起こる罪も真剣に受け止められますように。それが、神の聖霊による祝福につながる道です。